関西自然保護機構（KONC）2023 年大会
～ ポスター発表に参加して ～

報告　米道綱夫

日時　2023 年 2 月 26 日（日）10:00~16:30
場所　大阪自然史博物館本館　1 階ロビー
担当者　米道、野口、岸田、垣井

関西自然保護機構が年度総会と記念講演会並びに研究発表会に付随して関西各地で自然をテーマにいろいろな研究や調査をポスター形式で会場に展示し来場者に説明を行う発表会である。ポスターのサイズは縦 180cm 横 90cm 1 枚を縦に掲げてコアタイム 13:30~14:30 の間に発表する。全部で 29 団体が発表し、私たちに関連する展示ポスターに「堺市のヤマトサンショウウオ生息地における水生動物群集」和田直樹（大阪府大・生命）上田昇平・平井規央（大阪公院大・農）があり、本種の外来種の天敵としてアライグマ・アメリカザリガニが確認され、また餌候補としてミズムシが多く確認されたとの説明があった。

さて今般展示にあたり会の活動の調査に絞って発表した。ホタル調査、ヤマトサンショウウオ調査、カワニナ調査、ツバメのねぐら入り調査、ナラ枯れ調査の 5 項目である。ホタルの調査は 5 月末から 6 月中旬まで調査区間と調査のメンバーを約一ヶ月前からあらかじめ確定しておき、空白ができた部分は主だったメンバーで補うのと大阪府立大学の「さとかん」のメンバーにも参加してもらい、できるだけ詳しい調査が得られるようにしていることを紹介した。それと浚渫がホタルにどのような影響を与えるかについてこられた方や興味を持たれた方に今までの経緯では浚渫がホタルに大きくダメージを与えるものでなく復活が早いことを伝えようとした。

ヤマトサンショウウオ調査についてはサンショウウオの産卵時期や年ごとの変化を表した表を展示、卵塊の特徴がわかる写真、成体の大きさ、

調査風景の写真を展示した。

カワニナ調査は過去3回のカワニナ調査の様子を発表、調査風景の写真とカワニナが水中の酸素濃度の高いところにいることを示した写真（堰や堰のすぐ下流部分の）を展示した。

ツバメのねぐら入り調査は野口さんが詳しく記録をとっているので堺市美原区周辺のツバメのねぐらの変遷の地図及び1994年から2022年までのおよその個体数と特徴などを展示した。

ナラ枯れ調査は2016年ごろからはじまり2018年をピークに南部丘陵のナラ類がカシノナガキクイムシによる媒介で枯れる現象だった。ドローンを飛ばしてその実態写真の展示、2018年カシナガホイホイの取り付け作業の写真を展示。

以上がポスターの内容である。13時30分からのブースでの1時間の説明時間が与えられ、野口、岸田、垣井、米道がKONCの会員や一般の方々に説明した。

展示されたポスターの会場風景

本会展示ポスターと報告者